

「成人式を迎えて」



鈴木 宏尚さん
(栗山南部1-1)

私もついに今年成人式を迎えることとなった。成人式など先のことのように考えていた小学生、中学生のころがついこの間のことのように思える。久しぶりに旧友に会いいつそうその思いを強く感じた。

しかしながら、そのような考えを持っていたころよりは成長しているのは明らかだ。一人前の成人として社会に受け入れられるほどの成長を遂げているかはわからないが、皆二十年生きてきただけの発達を遂げている。だが、社会が複雑化することにより一人の人間が一人前の大人となる年齢はどんどん上がってきた。二十歳ともなれば外見にも法律的にも大人ではあるが、現在では内面的・精神的な面で一人前となる年齢は二十歳より

ももう少し高いのではないだろうか。今の私達には、一人前の成人となるにはまだ成長の余地が残されている。少なくとも私はそう感じている。人間の一生の中でおそらくこの最初の二十年が最も成長する時期ではあるが、まだまだである。完全な社会の一員になるのもこれからだ。

一応成人式は終えたが、今まで同様これからもいつそう大きく成長していく私達を、温かく見守っていただけたらありがたい。

「二十歳の自覚」



行木 奈都さん
(本町1)

早いものでもう二十歳、本当にあっという間の二十年間でした。まだまだ先のことだと思っていた成人式も先日済み、成人の仲間入りをしたわけですが、あまり実感が無いというのが正直なところです。

成人式を終えてからの生活も

以前と変わらず、両親には様々な面で助けられています。早く自立したいと思う反面、まだ親の援助に甘えていたいと思っている部分が自分の中にあるのです。そういったことを考えると、大人として扱われることに違和感を覚え、自分はまだ本当の意味での成人にはなれていないのではと感じてしまいます。

では、本当の意味での成人とはどのような人のことを言うのでしょうか。私も上手く答えることはできませんし、人により意見も違うと思いますが、本当は年齢によって決められるものではないような気がします。大人と言われる人の中にも、自分の行動に責任をとれない、そういう人が実際にいるのですから。私自身、二十歳になり、選挙権を得るなど社会に対しての責任と義務を一層強く負うようにはなりましたが、すぐに何かが変わったというわけではありません。しかし、「世間からは大人として見られるようになったのだ」という自覚を持つことはできたのではないのでしょうか。そしてこの自覚を持ったことにより、自分を成長させていくことができればと思います。



恩師を代表して挨拶する柳橋先生



新成人を代表して記念品を受ける行木さん



新しい言葉を述べる鈴木さん



あいにくの小雨模様の中を雨に濡れないように気遣いながら



会場は、晴れ着姿や袴姿の新成人で華やかな雰囲気